

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日            2 0 0 3 年   5 月 2 9 日  
Date of Application:

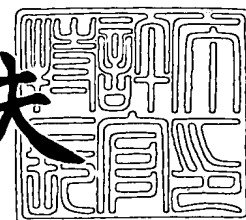
出 願 番 号            特 願 2 0 0 3 - 1 5 2 0 0 3  
Application Number:  
[ST. 10/C]:            [ J P 2 0 0 3 - 1 5 2 0 0 3 ]

出   願   人            コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社  
Applicant(s):

2 0 0 4 年   1 月 1 9 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫





【書類名】 特許願

【整理番号】 DTS00018

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G03G 15/01

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都八王子市石川町 2 9 7 0 番地 コニカビジネステ  
                                クノロジーズ株式会社内

    【氏名】 小澤 健一

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都八王子市石川町 2 9 7 0 番地 コニカビジネステ  
                                クノロジーズ株式会社内

    【氏名】 工藤 公生

【特許出願人】

    【識別番号】 303000372

    【氏名又は名称】 コニカビジネステクノロジーズ株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100121599

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 長石 富夫

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 203058

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

    【包括委任状番号】 0305288

【プルーフの要否】 要

**【書類名】 明細書****【発明の名称】 画像形成装置および色ずれ補正方法****【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

互いに異なる色の画像を形成する複数の像形成手段を備え、これらが形成する各色の画像を同一の像形成媒体上に複数重ね合わせてカラー画像を形成する画像形成装置において、

各色の画像同士の位置ずれを補正するためのテスト画像を前記像形成媒体上に作成するテスト画像作成手段と、

前記像形成媒体上に作成されたテスト画像を計測して、各色の画像同士の位置ずれ補正量を導出する補正量導出手段と、

前記各像形成手段による画像の形成位置を補正する補正手段と、

各色の画像同士の位置ずれを補正する一連の補正動作を制御する制御手段とを備え、

前記制御手段は、前記補正動作を第 1 段階とその後の第 2 段階に分けて実施するとともに、前記第 1 段階で前記位置ずれ補正量が所定の目標範囲に入るまで画素単位に位置ずれを補正し、前記第 2 段階で画素単位未満の補正量を含めて位置ずれを補正する

ことを特徴とする画像形成装置。

**【請求項 2】**

前記制御手段は、前記第 1 段階では、前記テスト画像の作成および計測を実施して補正量を導出し、前記第 2 段階では、前記第 1 段階で処理されずに残った補正量に基づいて補正する

ことを特徴とする請求項 1 に記載の画像形成装置。

**【請求項 3】**

互いに異なる色の画像を形成する複数の像形成手段を備え、これらが形成する各色の画像を同一の像形成媒体上に複数重ね合わせてカラー画像を形成する画像形成装置において、

各色の画像同士の位置ずれを補正するためのテスト画像を前記像形成媒体上に

作成するテスト画像作成手段と、

前記像形成媒体上に作成されたテスト画像を計測して、各色の画像同士の位置ずれ補正量を導出する補正量導出手段と、

前記各像形成手段による画像の形成位置を補正する補正手段と、

各色の画像同士の位置ずれを補正する一連の補正動作を制御する制御手段とを備え、

前記制御手段は、テスト画像を作成・計測して位置ずれ補正量を導出した後これに基づいて画像の形成位置を補正することを繰り返し実施するとともに、導出した位置ずれ補正量が所定の目標範囲に入っていない間は画像の位置ずれを画素単位に補正し、位置ずれ補正量が目標範囲に入ると画素単位未満の補正量を含めて画像の形成位置を補正する

ことを特徴とする画像形成装置。

#### 【請求項 4】

前記制御手段は、前記画素単位未満の補正量を含めた補正を実行して一連の補正動作を終了する

ことを特徴とする請求項 3 に記載の画像形成装置。

#### 【請求項 5】

画素単位の補正にかかる時間が、画素単位未満の補正にかかる時間より短い

ことを特徴とする請求項 1、2、3 または 4 に記載の画像形成装置。

#### 【請求項 6】

画素単位未満の補正をポリゴンミラーの面位相制御によって行なう

ことを特徴とする請求項 1、2、3、4 または 5 に記載の画像形成装置。

#### 【請求項 7】

互いに異なる色の画像を形成する複数の像形成手段を備え、これらが形成する各色の画像を同一の像形成媒体上に複数重ね合わせてカラー画像を形成する画像形成装置における色ずれ補正方法において、

色ずれの補正を第 1 段階とその後の第 2 段階に分けて実施するとともに、前記第 1 段階で各色の画像同士の位置ずれ補正量が所定の目標範囲に入るまで画素単位に位置ずれを補正し、前記第 2 段階で画素単位未満の位置ずれ補正量を含めて

位置ずれを補正する

ことを特徴とする色ずれ補正方法。

**【請求項 8】**

互いに異なる色の画像を形成する複数の像形成手段を備え、これらが形成する各色の画像を同一の像形成媒体上に複数重ね合わせてカラー画像を形成する画像形成装置における色ずれ補正方法において、

各色の画像同士の位置ずれを補正するためのテスト画像を前記像形成媒体上に作成し、これを計測して各色の画像同士の位置ずれ補正量を導出した後これに基づいて画像の形成位置を補正することを繰り返し実施するとともに、

導出した位置ずれ補正量が所定の目標範囲に入っていない間は画像の位置ずれを画素単位に補正し、

位置ずれ補正量が目標範囲に入ると画素単位未満の補正量を含めて画像の形成位置を補正する

ことを特徴とする色ずれ補正方法。

**【発明の詳細な説明】**

**【 0 0 0 1 】**

**【発明の属する技術分野】**

本発明は、各色の画像を複数重ね合わせてカラー画像を形成する画像形成装置およびその色ずれ補正方法に関する。

**【 0 0 0 2 】**

**【従来の技術】**

従来から、イエロー（Y）、マゼンタ（M）、シアン（C）、ブラック（K）の各色の画像を重ね合わせてカラー画像を形成し出力するカラー複写機やカラープリンタなどの画像形成装置がある。

**【 0 0 0 3 】**

たとえば、電子写真プロセスを用いたタンデム型のカラー複写機等では、感光体ドラム、帯電装置、走査光学装置、現像装置等からなる像形成ユニットを色毎に用意し、これらが無端ベルト状の中間転写ベルトに沿って配置し、周回する中間転写ベルト上に各色の画像を重ね合わせてカラー画像を形成するようになって

いる。中間転写ベルト上に形成されたカラー画像は転写紙に転写されて出力される。

#### 【0004】

このように各色の画像を重ね合わせてカラー画像を形成する際には、画像の形成位置が各色で正確に一致しなければ、色ずれが生じて美しい画像を得ることができない。そこで、レジストマークと呼ばれる色ずれ補正用のテスト画像を中間転写ベルト上に形成し、これを光学センサで読み取って必要な補正量を求め、画像の形成位置を補正することが行なわれる。

#### 【0005】

レジストマークの作成と計測によって得られる補正量は、画素単位未満の細かい補正量を含んでいる。このうち主走査方向における画素単位の補正は、走査光学装置の有するレーザーダイオードに画像信号を与えるタイミングをクロック単位に調整することで実現される。主走査方向における画素単位未満の補正は、たとえば、レーザー光を感光体の幅方向に走査させるポリゴンミラーの面位相制御により行なう。

#### 【0006】

色ずれの補正動作では、レジストマークを作成し、これを計測して必要な補正量を導出し、この補正量に応じて画素単位の補正と画素単位未満の補正の双方を実施するという工程を何度も繰り返して、色ずれ量を許容範囲内まで追い込むようになっている。

#### 【0007】

##### 【特許文献1】

特開平6-95474号公報

#### 【0008】

##### 【発明が解決しようとする課題】

画素単位の補正は、レーザーダイオードに画像信号を与えるタイミングをクロック単位に調整するだけなので短時間で終了する。一方、画素単位未満を補正するポリゴンミラーの面位相制御は、位相を調整してからポリゴンミラーの回転が安定するまでに長い時間（数秒）を要する。従来は、このように長い時間を要す

る画素単位未満の補正と短時間で終了する画素単位の補正の双方を、レジストマークを作成・計測して補正する毎に実施していたので、レジストマークを作成してから次にレジストマークを作成するまでの周期が長くなり、一連の補正動作が完了するまでに長い時間を要するという問題があった。

#### 【0009】

本発明は、このような従来の技術が有する問題点に着目してなされたもので、各色の画像を重ね合わせてカラー画像を形成する画像形成装置における色ずれ補正動作の所要時間を短縮することを目的としている。

#### 【0010】

##### 【課題を解決するための手段】

かかる目的を達成するための本発明の要旨とするところは、次の各項の発明に存する。

#### 【0011】

請求項1にかかわる発明は、互いに異なる色の画像を形成する複数の像形成手段（50Y、50M、50C、50K）を備え、これらが形成する各色の画像を同一の像形成媒体（41）上に複数重ね合わせてカラー画像を形成する画像形成装置において、各色の画像同士の位置ずれを補正するためのテスト画像（200Y、200M、200C、200K）を前記像形成媒体（41）上に作成するテスト画像作成手段（102）と、前記像形成媒体（41）上に作成されたテスト画像（200Y、200M、200C、200K）を計測して、各色の画像同士の位置ずれ補正量を導出する補正量導出手段（103、104）と、前記各像形成手段（50Y、50M、50C、50K）による画像の形成位置を補正する補正手段（110Y、110M、110C、110K）と、各色の画像同士の位置ずれを補正する一連の補正動作を制御する制御手段（101）とを備え、前記制御手段（101）は、前記補正動作を第1段階とその後の第2段階に分けて実施するとともに、前記第1段階で前記位置ずれ補正量が所定の目標範囲に入るまで画素単位に位置ずれを補正し、前記第2段階で画素単位未満の補正量を含めて位置ずれを補正することを特徴とする画像形成装置である。

#### 【0012】

上記発明によれば、各色画像の位置ずれを補正する動作が、画素単位に位置ずれを補正する第 1 段階と、画素単位未満の補正量を含めて位置ずれを補正する第 2 段階に分けて実施される。テスト画像（2 0 0 Y、2 0 0 M、2 0 0 C、2 0 0 K）を作成・計測し、必要な補正量を導出して補正を実施するという一連の工程を何度も繰り返して位置ずれ量を目標範囲内に収める場合には、その収束過程で画素単位未満のように細かい調整を行なう必要はなく、最後の仕上げに詳細な調整を実施するだけで目標が達成される。したがって、画素単位未満を含む補正を第 2 段階でのみ行なうことによって、各色画像の位置ずれ補正を、効率良く短時間で行なうことが可能になる。なお、第 2 段階では、画素単位未満の補正のみを実施するほか、画素単位の補正と画素単位未満の補正の双方を実施してもよい。

#### 【0 0 1 3】

請求項 2 にかかわる発明は、前記制御手段（1 0 1）は、前記第 1 段階では、前記テスト画像（2 0 0 Y、2 0 0 M、2 0 0 C、2 0 0 K）の作成および計測を実施して補正量を導出し、前記第 2 段階では、前記第 1 段階で処理されずに残った補正量に基づいて補正することを特徴とする請求項 1 に記載の画像形成装置である。

#### 【0 0 1 4】

上記発明によれば、第 2 段階では、改めてテスト画像（2 0 0 Y、2 0 0 M、2 0 0 C、2 0 0 K）の作成・計測を実施して補正量を導出せずに、第 1 段階で処理されずに残った補正量を用いるので、それだけ補正動作完了までの所要時間が短縮される。なお、第 1 段階の最後を取得した位置ずれ補正量が目標範囲に入っているときは、その後、画素単位の補正を第 1 段階で行なうことなく、第 2 段階において画素単位の補正と画素単位未満の補正の双方を並行実施するように構成してもよい。

#### 【0 0 1 5】

請求項 3 にかかわる発明は、互いに異なる色の画像を形成する複数の像形成手段（5 0 Y、5 0 M、5 0 C、5 0 K）を備え、これらが形成する各色の画像を同一の像形成媒体（4 1）上に複数重ね合わせてフルカラー画像を形成する画像



形成装置において、各色の画像同士の位置ずれを補正するためのテスト画像（200Y、200M、200C、200K）を前記像形成媒体（41）上に作成するテスト画像作成手段（102）と、前記像形成媒体（41）上に作成されたテスト画像（200Y、200M、200C、200K）を計測して、各色の画像同士の位置ずれ補正量を導出する補正量導出手段（103、104）と、前記各像形成手段（50Y、50M、50C、50K）による画像の形成位置を補正する補正手段（110Y、110M、110C、110K）と、各色の画像同士の位置ずれを補正する一連の補正動作を制御する制御手段（101）とを備え、前記制御手段（101）は、テスト画像（200Y、200M、200C、200K）を作成・計測して位置ずれ補正量を導出した後これに基づいて画像の形成位置を補正することを繰り返し実施するとともに、導出した位置ずれ補正量が所定の目標範囲に入っていない間は画像の位置ずれを画素単位に補正し、位置ずれ補正量が目標範囲に入ると画素単位未満の補正量を含めて画像の形成位置を補正することを特徴とする画像形成装置である。

#### 【0016】

上記発明によれば、導出した位置ずれ補正量が目標範囲に入っていない間は、各色画像の位置ずれを画素単位に補正してから再度、テスト画像（200Y、200M、200C、200K）の作成・計測が行なわれる。また位置ずれ補正量が目標範囲に入ると画素単位未満の補正量を含めた補正が行なわれる。位置ずれ補正量が目標範囲に入るまでの収束過程においては補正を画素単位に実施するので、各色画像の位置ずれ補正を効率良く短時間で行なうことができる。

#### 【0017】

請求項4にかかわる発明は、前記制御手段（101）は、前記画素単位未満の補正量を含めた補正を実行して一連の補正動作を終了することを特徴とする請求項3に記載の画像形成装置である。

#### 【0018】

上記発明によれば、位置ずれ補正量が目標範囲に入った後は、テスト画像（200Y、200M、200C、200K）の作成・計測は行なわず、画素単位未満を含めた補正を実施して一連の補正動作が終了する。このようにテスト画像（

200Y、200M、200C、200K)の作成・計測を繰り返し実施する間は画素単位の補正のみを実施し、補正動作の最後に1回だけ画素単位未満を含む補正を実施するので、各色画像の位置ずれ補正を、効率良く短時間で行なうことが可能になる。

#### 【0019】

請求項5にかかわる発明は、画素単位の補正にかかる時間が、画素単位未満の補正にかかる時間より短いことを特徴とする請求項1、2、3または4に記載の画像形成装置である。

#### 【0020】

上記発明によれば、位置ずれ補正量が目標範囲に入るまでに、テスト画像(200Y、200M、200C、200K)の作成・計測を伴う画素単位の補正が繰り返し行なわれた場合でも、画素単位の補正にかかる時間が短いので、補正完了までの動作を短時間で行なえる。

#### 【0021】

請求項6にかかわる発明は、画素単位未満の補正をポリゴンミラーの面位相制御によって行なうことを特徴とする請求項1、2、3、4または5に記載の画像形成装置である。

#### 【0022】

上記発明によれば、画素単位未満の補正を細かく行なうことができる。

#### 【0023】

請求項7にかかわる発明は、互いに異なる色の画像を形成する複数の像形成手段(50Y、50M、50C、50K)を備え、これらが形成する各色の画像を同一の像形成媒体(41)上に複数重ね合わせてカラー画像を形成する画像形成装置における色ずれ補正方法において、色ずれの補正を第1段階とその後の第2段階に分けて実施するとともに、前記第1段階で各色の画像同士の位置ずれ補正量が所定の目標範囲に入るまで画素単位に位置ずれを補正し、前記第2段階で画素単位未満の位置ずれ補正量を含めて位置ずれを補正することを特徴とする色ずれ補正方法である。

#### 【0024】

上記発明によれば、各色画像の位置ずれ補正が、画素単位に位置ずれを補正する第 1 段階と、画素単位未満の補正量を含めて位置ずれを補正する第 2 段階に分けて実施される。必要な位置ずれ補正量が目標範囲に入るまで収束してからのみ画素単位未満の補正量を含む細かい調整を行なうので、各色画像の位置ずれ補正を、効率良く短時間で行なうことが可能になる。

#### 【 0 0 2 5 】

請求項 8 にかかわる発明は、互いに異なる色の画像を形成する複数の像形成手段（5 0 Y、5 0 M、5 0 C、5 0 K）を備え、これらが形成する各色の画像を同一の像形成媒体（4 1）上に複数重ね合わせてカラー画像を形成する画像形成装置における色ずれ補正方法において、各色の画像同士の位置ずれを補正するためのテスト画像（2 0 0 Y、2 0 0 M、2 0 0 C、2 0 0 K）を前記像形成媒体（4 1）上に作成し、これを計測して各色の画像同士の位置ずれ補正量を導出した後これに基づいて画像の形成位置を補正することを繰り返し実施するとともに、導出した位置ずれ補正量が所定の目標範囲に入っていない間は画像の位置ずれを画素単位に補正し、位置ずれ補正量が目標範囲に入ると画素単位未満の補正量を含めて画像の形成位置を補正することを特徴とする色ずれ補正方法である。

#### 【 0 0 2 6 】

上記発明によれば、導出した位置ずれ補正量が所定の目標範囲に入っていない間は各色画像の位置ずれを画素単位に補正してから再度テスト画像（2 0 0 Y、2 0 0 M、2 0 0 C、2 0 0 K）の作成・計測が行なわれ、位置ずれ補正量が目標範囲に入ると画素単位未満の補正量を含めた補正が行なわれる。位置ずれ補正量が目標範囲に入るまでの収束過程においては補正を画素単位に実施するので、各色画像の位置ずれ補正を効率良く短時間で完了することが可能になる。

#### 【 0 0 2 7 】

##### 【発明の実施の形態】

以下、図面に基づき本発明の実施の形態を説明する。

図 2 は、本発明の実施の形態にかかわる画像形成装置 1 0 の断面構成を示している。画像形成装置 1 0 は、カラーデジタル複写機と称される装置である。画像形成装置 1 0 は、自動原稿送り装置 2 0 と、読取部 3 0 と、プリンタ部 4 0 とか

ら構成される。自動原稿送り装置 20 は、原稿載置トレイ 21 に積載された原稿 2 を 1 枚ずつ読取部 30 の読取箇所を送り込み、読取が済んだ原稿を排紙トレイ 27 に排出する機能を果たす。また両面原稿については、片面読取後、表裏を反転して再び読取部 30 へ送り込む機能を備えている。

#### 【0028】

自動原稿送り装置 20 は、原稿載置トレイ 21 に積載された原稿を最上部から順に送り出す給紙ローラ 22 と、原稿の読取箇所であるコンタクトガラス 31 に原稿を密着させながら通過させるための密着ローラ 23 と、給紙ローラ 22 によって送り込まれた原稿を密着ローラ 23 に沿って案内する案内ローラ 24 を備えている。さらに、コンタクトガラス 31 を通過した原稿の進行方向を切り替える切替爪 25 と、両面原稿の表裏を反転させるための反転ローラ 26 と、読取の完了した原稿が排出される排紙トレイ 27 とを備えている。

#### 【0029】

読取部 30 は、原稿をカラーで読み取る機能を有する。読取部 30 は、光源 3 とミラー 34 とから成る露光走査部 35 と、原稿からの反射光を受光しその光強度に応じた電気信号を色別に出力するカラー方式のラインイメージセンサ 36 と、原稿からの反射光をラインイメージセンサ 36 へ集光する集光レンズ 37 と、露光走査部 35 のミラー 34 からの反射光をラインイメージセンサ 36 へ導くための光学経路を形成する各種のミラー 38 を備えている。

#### 【0030】

自動原稿送り装置 20 によって送り込まれた原稿を読み取る時は、露光走査部 35 がコンタクトガラス 31 の下方の読取箇所へ移動して停止し、その上を密着ローラ 23 によって搬送されて移動する原稿を読み取るようになっている。プラテンガラス 32 上に載置された原稿を読み取る場合には、プラテンガラス 32 の下面に沿って左から右へと露光走査部 35 が移動して静止状態の原稿を読み取るようになっている。

#### 【0031】

プリンタ部 40 は、タンデム型カラー画像形成装置と称されるもので、無端ベルト状の中間転写ベルト 41 と、中間転写ベルト 41 上にそれぞれ単一色の画像

を形成する複数の像形成ユニット 50Y、50M、50C、50Kと、転写紙を給紙する給紙手段 70と、給紙された転写紙を搬送する搬送手段 80と、定着装置 42とを備えている。また画像形成装置全体の動作を統括する制御回路 90を有している。

### 【0032】

像形成ユニット 50Yは、イエロー（Y）色の画像を中間転写ベルト 41上に形成し、像形成ユニット 50Mは、マゼンタ（M）色の画像を中間転写ベルト 41上に形成する。像形成ユニット 50Cは、シアン（C）色の画像を中間転写ベルト 41上に形成し、像形成ユニット 50Kは、ブラック（K）色の画像を中間転写ベルト 41上に形成するものである。

### 【0033】

像形成ユニット 50Yは、表面に静電潜像が形成される円筒状の静電潜像担持体としての感光体 51Yと、その周囲に配置された帯電装置 52Yと、現像装置 53Yと、クリーニング装置 54Yとを有する。またレーザーダイオードと、ポリゴンミラーと、各種レンズおよびミラー等で構成されたレーザーユニット 55Yを備えている。

### 【0034】

感光体 51Yは、図示省略の駆動部に駆動されて一定方向（図中の矢印A方向）に回転し、帯電装置 52Yは、感光体 51Yを一様に帯電させる。レーザーユニット 55Yは、図3に示すように、レーザーダイオード 56Yが射出するレーザー光を、回転するポリゴンミラー 57Yで反射することによって感光体 51Yの表面をその幅方向（主走査方向）にレーザー光で繰り返し走査する機能を果たす。一様に帯電された感光体 51Yの表面を、イエロー色の画像データに応じてON/OFFするレーザー光で走査することにより、感光体 51Y上に静電潜像が形成される。現像装置 50Yは、感光体 51Yの静電潜像をイエロー色のトナーによって顕像化する。感光体 51Yの表面に形成されたトナー像は、中間転写ベルト 41と接触する箇所で中間転写ベルト 41に転写される。クリーニング装置 54Yは、転写後に感光体 51Yの表面に残留するトナーをブレード等で擦って除去し回収する機能を果たす。

**【 0 0 3 5 】**

像形成ユニット 5 0 M および像形成ユニット 5 0 C、像形成ユニット 5 0 K は、トナーの色が相違することと、それぞれの色に対応する画像データでレーザー光が ON / OFF される点を除いて像形成ユニット 5 0 Y と同一の構成であり、個々の説明は省略する。なお、同じ構成要素には数字が同一であって添え字を Y に代えて M、C、K とした符号を付してある。

**【 0 0 3 6 】**

中間転写ベルト 4 1 は複数のローラを巻回して回動可能に支持されている。中間転写ベルト 4 1 は、図示省略の駆動手段により矢印 B の示す方向に周回する。周回する過程で、中間転写ベルト 4 1 上に (Y)、(M)、(C)、(K) の順に各色の画像が像形成ユニット 5 0 Y、5 0 M、5 0 C、5 0 K によって重ねて形成されてカラー画像が合成される。このカラー画像は、中間転写ベルト 4 1 の周回経路の下端部に設けた二次転写箇所 C で中間転写ベルト 4 1 から転写紙に転写される。

**【 0 0 3 7 】**

周回方向で二次転写箇所 C の下流には、中間転写ベルト 4 1 上に形成された画像を検出する反射型光センサからなる一対のレジストセンサ 4 3 a、4 3 b が配置されている。2 つのレジストセンサ 4 3 a、4 3 b は、中間転写ベルト 4 1 の幅方向に離して設置されている。レジストセンサ 4 3 a、4 3 b のさらに下流には、転写後に中間転写ベルト 4 1 上に残留しているトナーを除去するためのクリーニング装置 4 4 が設置されている。

**【 0 0 3 8 】**

給紙手段 7 0 は、複数の給紙カセット 7 1 を有し、通常、サイズや紙種の異なる転写紙が収容される。各給紙カセット 7 1 に収容された転写紙は、最上部から 1 枚ずつ第 1 給紙ローラ 7 2 によって搬送手段 8 0 に向けて送り出される。搬送手段 8 0 は、給紙カセット 7 1 からの転写紙を二次転写箇所 C および定着装置 4 2 を通過させて機外の排紙トレイに排出する通常経路 8 0 a と、定着装置 4 2 を通った転写紙の表示を反転させた後、二次転写箇所 C の上流で再び通常経路 8 0 a へ合流させる反転経路 8 0 b から構成される。各経路 8 0 a、8 0 b は、最小

サイズの転写紙の送り方向サイズより短い間隔で多数の搬送ローラ 81 を有している。

#### 【0039】

画像形成装置 10 は、中間転写ベルト 41 上に形成されるカラー画像が色ずれしないように調整する補正動作の実行機能を備えている。図 4 は、補正動作にかかわる部分の概略構成を示している。色ずれの補正動作では、レジストマークと呼ばれる色ずれ補正用のテスト画像を中間転写ベルト 41 上に形成し、これをレジストセンサ 43 a、43 b で読み取って補正量を求め、各色画像の形成位置を補正することが行なわれる。

#### 【0040】

データ処理システム 100 は、制御回路 90 に含まれ、像形成ユニット 50 Y、50 M、50 C、50 K を制御してレジストマークを中間転写ベルト 41 上に形成する機能や、レジストセンサ 43 a、43 b を用いてレジストマークの位置を検出し補正量を演算導出する機能のほか補正動作全体の流れを制御する機能を果たす。補正手段 110 Y、110 M、110 C、110 K は、それぞれ対応する像形成ユニット 50 Y、50 M、50 C、50 K が中間転写ベルト 41 上に画像を形成する際の形成位置を調整する機能を果たす。補正手段 110 Y、110 M、110 C、110 K は、画像データに応じてレーザー光を ON/OFF 制御する際の各ラインの先頭位置をクロック単位（すなわち画素単位に）に調整する機能と、ポリゴンミラーの面位相制御によって各ラインの先頭位置を画素単位未満のレベルで調整する機能を有している。

#### 【0041】

図 1 は、データ処理システム 100 および補正手段 110 Y、110 M、110 C、110 K の概略構成を示している。ここでは、各色画像の主走査方向の位置ずれを補正する回路部分を示している。データ処理システム 100 は、CPU を主要部として構成され、制御手段 101 と、テスト画像作成手段 102 と、位置検出回路 103 と、補正量導出手段 104 の機能を備えている。制御手段 101 は、各色の画像同士の位置ずれを補正するための一連の補正動作を制御する機能を果たす。テスト画像作成手段 102 は、像形成ユニット 50 Y、50 M、5

0C、50K等を制御してレジストマークを中間転写ベルト41上に作成する。位置検出回路103は、中間転写ベルト41上に作成されたレジストマークをレジストセンサ43a、43bで読み取り、各色画像同士の色ずれを解消するために必要な各色画像の形成位置の補正量である位置ずれ補正量を導出する。位置ずれ補正量は、画素単位の補正量と画素単位未満の補正量に分けて導出される。

#### 【0042】

Y色の補正手段110Yは、像形成ユニット50Yが中間転写ベルト41上に形成するY色画像の形成位置を補正する回路である。補正手段110Yは、画素単位未満補正部111Yと画素単位補正部112Yを備えている。画素単位未満補正部111Yは、レーザーユニット55Yのポリゴンミラー57Yを駆動するモータに与えるクロック信号であるポリゴンCLK121Yを生成する回路である。画素単位未満補正部111Yは、データ処理システム100から供給される面位相制御信号122Yに基づいて、ポリゴンCLK121Yの位相を調整する機能を備えている。

#### 【0043】

画素単位補正部112Yは、像形成ユニット50Yのレーザーダイオード56YをON/OFF制御するためのLD駆動信号123Yを生成する回路である。画素単位補正部112Yには、レーザーダイオード56Yを画素単位にON/OFFするタイミングの基準となるCLK信号124と、Y色の画像データである画信号125Yと、対応するレーザー光が主走査方向の基準位置を横切ったタイミングを示すH-START信号126Yが入力される。

#### 【0044】

データ処理システム100から入力される主走査位置補正信号127Yは、画信号125Yに応じてLD駆動信号123YのON/OFF制御を開始するタイミングをH-START信号126Yを基準にして表したものである。たとえば、主走査位置補正信号127Yは、H-START信号126Yが入力されてからレーザー光のON/OFF制御を開始するまでのクロック数を表している。画素単位補正部112Yは、データ処理システム100から入力される主走査位置補正信号127Yの値に応じて、中間転写ベルト41上に形成するY色画像の主



走査方向位置を画素単位で調整する機能を備えている。

#### 【0045】

M色の補正手段110Mは、像形成ユニット50Mが中間転写ベルト41上に形成するM色画像の形成位置を補正する回路である。C色の補正手段110Cは、像形成ユニット50Cが中間転写ベルト41上に形成するC色画像の形成位置を補正する回路であり、K色の補正手段110Kは、像形成ユニット50Kが中間転写ベルト41上に形成するK色画像の形成位置を補正する回路である。これらの構成はY色の補正手段110Yと同様であり、それらの説明を省略する。データ処理システム100は、各補正手段110Y、110M、110C、110Kに与える面位相制御信号122Y、122M、122C、122Kや主走査位置補正信号127Y、127M、127C、127Kの値を調整することで各色画像の主走査方向位置を個別に制御し得るようになっている。

#### 【0046】

図5は、ポリゴンミラーを面位相制御した状態の一例を示している。K色の像形成ユニット50Kのポリゴンミラー57Kに対して、Y色の像形成ユニット50Yのポリゴンミラー57Yは角度 $\theta$ の位相差を保ち続けて回転する。この角度 $\theta$ を細かく変えることにより、主走査方向における画素単位未満の画像形成位置が調整される。

#### 【0047】

図6は、中間転写ベルト41上に形成されるレジストマークの一例を示している。レジストマークは、K色のレジストマーク200Kと、C色のレジストマーク200Cと、M色のレジストマーク200Mと、Y色のレジストマーク200Yとから構成される。各色のレジストマーク200Y、200M、200C、200Kは、中間転写ベルト41の幅方向の線素と斜めの線素とが交互に繰り返し（図では4回）出現するジグザグ模様になっている。レジストマーク200Y、200M、200C、200Kは、中間転写ベルト41の幅方向左右両端近傍に分けて形成され、それぞれ対応する箇所に配置されたレジストセンサ43a、43bによって検出される。

#### 【0048】

図7は、各色画像の位置ずれや横倍率をレジストマークによって検出する様子  
を示している。たとえば、K色のレジストマーク200Kの幅方向第1線素21  
1Kを検出してからC色のレジストマーク200Cの幅方向第1線素211Cを  
検出するまでの時間T1の長さに基づいてK色の画像とC色の画像の副走査方向  
における位置関係が把握される。K色のレジストマーク200Kの斜め第1線素  
212Kを検出してからC色のレジストマーク200Cの斜め第1線素212C  
を検出するまでの時間T2と、先に検出した時間T1との関係により、K色の画  
像とC色の画像の主走査方向における位置関係を把握することができる。たと  
えばT1=T2ならば、主走査方向の位置ずれは無い。T2が図中のTaで示すよ  
うにT1より短い場合には図中破線で示すようにC色の画像220がK色の画像  
より左側に位置ずれしていることが分かる。またT1とTaとの時間差から位置  
ずれ量を把握することができる。

#### 【0049】

このほか、左のレジストセンサ43aがK色のレジストマーク200Kの左列  
の幅方向第1線素211Kを検出した時刻と右のレジストセンサ43bが右列の  
幅方向第1線素211KRを検出した時刻との差(T3)から、K色画像のスキュー  
(傾き)が検出される。また左のレジストセンサ43aがK色のレジストマー  
ク200Kの左列の斜め第1線素212Kを検出した時刻と右のレジストセンサ  
43bが右列の斜め第1線素212KRを検出した時刻との差(T4)と先の(T  
3)との差から、K色画像の横ばい率が検出される。他の色についても同様に  
して位置ずれやスキュー、倍率が検出される。

#### 【0050】

図8は、データ処理システム100の制御手段101が制御する一連の補正動  
作の流れを示している。補正動作は、第1段階と第2段階に分けて行なわれる。  
最終的に色ずれ量を目標範囲内に収めれば補正動作の目標は達成されるので、画  
素単位未満のように細かい調整は色ずれ量の収束過程では必要なく、最後の仕上  
げ時のみ実施すればよい。そこで、位置ずれ補正量が目標範囲に入る前の第1段  
階では画素単位に各色画像の位置ずれ(色ずれ)を補正し、目標範囲に入った後  
の第2段階で画素単位未満の補正量を含めた補正を実施するようになっている。

**【0051】**

補正動作の第1段階では、像形成ユニット50Y、50M、50C、50Kを制御して感光体51Y、51M、51C、51Kに各色のレジストマークを作成し（ステップS301）、これらを転写して中間転写ベルト41上に図6に示したレジストマーク200Y、200M、200C、200Kを作成する（ステップS302）。レジストセンサ43a、43bでこれらのレジストマーク200Y、200M、200C、200Kを読み取り（ステップS303）、データ処理システム100の補正量導出手段104が位置ずれ補正量を導出する（ステップS304）。次に今回の補正量で補正が可能か否かを判定する。たとえば、レジストマークが正常に画像形成されていなかったり、中間転写ベルト41の傷によって適正なチェックができなかったりする場合は、補正しない（ステップS305; N）。

**【0052】**

上記のような要因がなく補正可能な場合は（ステップS305; Y）、画素単位での補正を実施する（ステップS306）。ここでは、K色の画像位置を基準としてそれ以外の色の画像の形成位置を画素単位に補正する。ステップS304で導出した位置ずれ補正量は、画素単位未満の補正量も含んでいるが、第1段階の補正ではそのうちの画素単位の部分だけを補正する。たとえば導出した位置ずれ補正量が4.68ドットの場合、その画素単位部分（整数部分）である4ドットの補正を実行する。画素単位の補正は、画素単位補正部112Y、112M、112C、112Kに与える主走査位置補正信号127Y、127M、127C、127Kの値を変更して行なう。この補正は画素単位補正部112Y、112M、112C、112Kに値を設定するだけで即座に完了する。

**【0053】**

次にレジストマークの作成および計測を繰り返すか否かを判定する（ステップS307）。ステップS305で「補正しない（N）」という判定が複数回継続してエラーとなったとき又は位置ずれ補正量が目標範囲に収まった場合は、レジストマークの作成を繰り返さずに第1段階の補正を終了して第2段階へ移行する（ステップS307; N）。エラーが発生せずかつ位置ずれ補正量が目標範囲に収

まっていないときは（ステップ S 307；Y）、ステップ S 301 に戻ってレジストマークの作成・計測を再度実行する。すなわち、位置ずれ補正量が目標範囲に収まっていない場合は、画素単位での補正を行なった後に次のレジストマークの作成が行なわれる。

#### 【0054】

第 2 段階の補正では、第 1 段階の補正動作がエラー無しに正常終了したか否かを判定し（ステップ S 308）、エラーの場合は（ステップ S 308；N）、エラーで補正動作を終了する。第 1 段階が正常終了の場合は（ステップ S 308；Y）、画素単位未満を含めた補正を実施して（ステップ S 309）、一連の補正動作を終了する（END）。たとえば、目標範囲が 2 画素の場合であって、最後にレジストマークを作成・計測して得た位置ずれ補正量が 1.6 ドットの場合には、ステップ S 306 でその画素単位部分である 1 ドットの補正を行ない、残る 0.6 ドット分の補正をステップ S 309 で実施する。

#### 【0055】

画素単位未満の補正は、データ処理システム 100 から画素単位未満補正部 111 Y、111 M、111 C、111 K に与える面位相制御信号 122 Y、122 M、122 C、122 K の値を変更して行なう。この補正はポリゴンミラーの面位相制御で行なうため、面位相制御信号 122 Y、122 M、122 C、122 K の値によって角度を変更してから補正動作が完了するまでに、ポリゴンミラーの回転が安定するまでの数秒間を要する。次のテスト画像を作成する必要がある場合には、短時間で終了する画素単位の補正のみをその前に実施し、上記のように長い時間を要する画素単位未満の補正動作を実施しないので、補正後すぐに次のテスト画像の作成を開始することができる。すなわち、テスト画像を作成・計測し、位置ずれ補正量を導出し、これに基づいて補正するというサイクルの一巡に要する時間が短縮されるので、位置ずれ補正量が目標範囲に入るまでにこのサイクルを何度も繰り返す場合には、一連の補正動作が完了するまでの所要時間が短縮される。

#### 【0056】

以上、本発明の実施の形態を図面によって説明してきたが、具体的な構成はこ

れら実施の形態に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変更や追加があっても本発明に含まれる。たとえば実施の形態では、位置ずれ補正量が目標範囲に入った際に、ステップ S 3 0 6 で画素単位の補正を行ない、その後ステップ S 3 0 9 で画素単位未満の補正を行なったが、位置ずれ補正量が目標範囲内に入ったことを確認した後、当該位置ずれ補正量に応じて画素単位の補正と画素単位未満の補正を同時に実施してもよい。

#### 【 0 0 5 7 】

また実施の形態では主走査方向における各色画像の位置ずれを補正する場合について説明したが、副走査方向、スキュー、倍率などの補正についても本発明を適用することができる。すなわち、補正動作を、第 1 補正動作と、これよりも時間を要しかつ細かく補正する第 2 補正動作とに分けて実施可能な場合には、次のテスト画像を作成する前には短時間で終了する第 1 補正動作のみを実施するように構成すればよい。

#### 【 0 0 5 8 】

##### 【発明の効果】

本発明にかかる画像形成装置および色ずれ補正方法によれば、各色画像の位置ずれ補正量が目標範囲に入るまでは画素単位に位置ずれを補正し、目標範囲に入ってから画素単位未満の補正量を含めて位置ずれを補正するので、各色画像の位置ずれを、効率良く短時間で補正でき、ユーザーの待ち時間が短縮される。

##### 【図面の簡単な説明】

##### 【図 1】

本発明の実施の形態に係る画像形成装置のうち色ずれ補正にかかわる回路部分の構成を示すブロック図である。

##### 【図 2】

本発明の実施の形態に係る画像形成装置の断面構成を示す説明図である。

##### 【図 3】

ポリゴンミラーに反射されてレーザー光が感光体を走査する様子を示す説明図である。

##### 【図 4】

本発明の実施の形態に係る画像形成装置のうち色ずれ補正にかかわる部分の概略構成を示す説明図である。

【図 5】

面位相制御された状態のポリゴンミラーを示す説明図である。

【図 6】

中間転写ベルト上に形成されたレジストマークの一例を示す説明図である。

【図 7】

各色画像の位置ずれや横倍率をレジストマークから判定する様子を示す説明図である。

【図 8】

本発明の実施の形態に係る画像形成装置が行なう色ずれ補正動作を示す流れ図である。

【符号の説明】

C…二次転写箇所

1 0…画像形成装置

2 0…自動原稿送り装置

2 1…原稿載置トレイ

2 2…給紙ローラ

2 3…密着ローラ

2 4…案内ローラ

2 5…切替爪

2 6…反転ローラ

2 7…排紙トレイ

3 0…読取部

3 1…コンタクトガラス

3 2…プラテンガラス

3 3…光源

3 4…ミラー

3 5…露光走査部

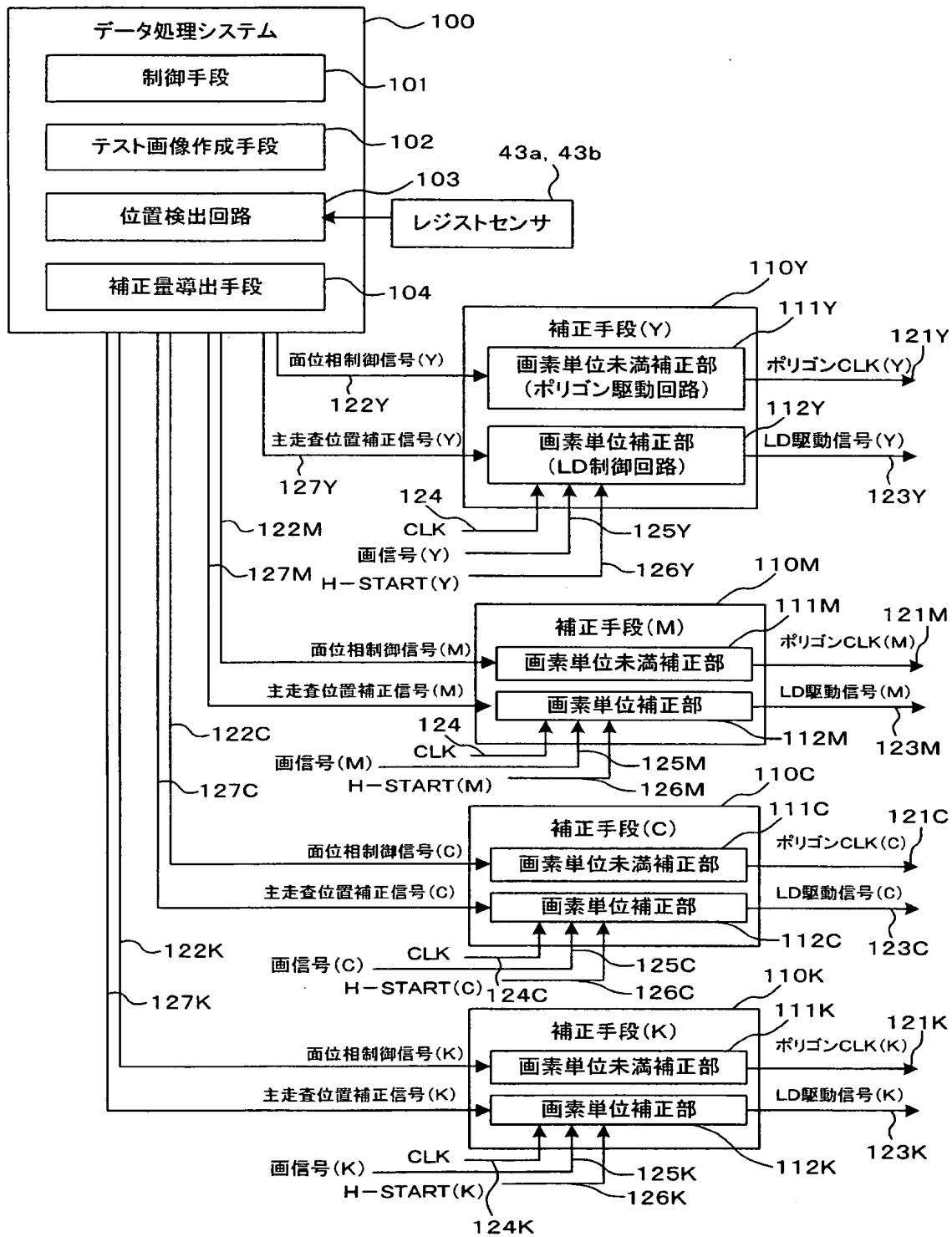
3 6 …ラインイメージセンサ  
3 7 …集光レンズ  
3 8 …ミラー  
4 0 …プリンタ部  
4 1 …中間転写ベルト  
4 2 …定着装置  
4 3 a、4 3 b …レジストセンサ  
4 4 …クリーニング装置  
5 0 Y、5 0 M、5 0 C、5 0 K …像形成ユニット  
5 1 Y、5 1 M、5 1 C、5 1 K …感光体  
5 2 Y、5 2 M、5 2 C、5 2 K …帯電装置  
5 3 Y、5 3 M、5 3 C、5 3 K …現像装置  
5 4 Y、5 4 M、5 4 C、5 4 K …クリーニング装置  
5 5 Y、5 5 M、5 5 C、5 5 K …レーザーユニット  
5 6 Y …レーザーダイオード  
5 7 Y、5 7 K …ポリゴンミラー  
7 0 …給紙手段  
7 1 …給紙カセット  
7 2 …第 1 給紙ローラ  
8 0 …搬送手段  
8 0 a …通常経路  
8 0 b …反転経路  
8 1 …搬送ローラ  
9 0 …制御回路  
1 0 0 …データ処理システム  
1 0 1 …制御手段  
1 0 2 …テスト画像作成手段  
1 0 3 …位置検出回路  
1 0 4 …補正量導出手段

1 1 0 Y、1 1 0 M、1 1 0 C、1 1 0 K…補正手段  
1 1 1 Y、1 1 1 M、1 1 1 C、1 1 1 K…画素単位未満補正部  
1 1 2 Y、1 1 2 M、1 1 2 C、1 1 2 K…画素単位補正部  
1 2 1 Y、1 2 1 M、1 2 1 C、1 2 1 K…ポリゴン C L K  
1 2 2 Y、1 2 2 M、1 2 2 C、1 2 2 K…面位相制御信号  
1 2 3 Y、1 2 3 M、1 2 3 C、1 2 3 K…L D 駆動信号  
1 2 4 …C L K 信号  
1 2 5 Y、1 2 5 M、1 2 5 C、1 2 5 K…画信号  
1 2 6 Y、1 2 6 M、1 2 6 C、1 2 6 K…H - S T A R T 信号  
1 2 7 Y、1 2 7 M、1 2 7 C、1 2 7 K…主走査位置補正信号  
2 0 0 C…C 色のレジストマーク  
2 0 0 K…K 色のレジストマーク  
2 0 0 M…M 色のレジストマーク  
2 0 0 Y…Y 色のレジストマーク  
2 1 1 C、2 1 1 K…幅方向第 1 線素  
2 1 2 C、2 1 2 K…斜め第 1 線素

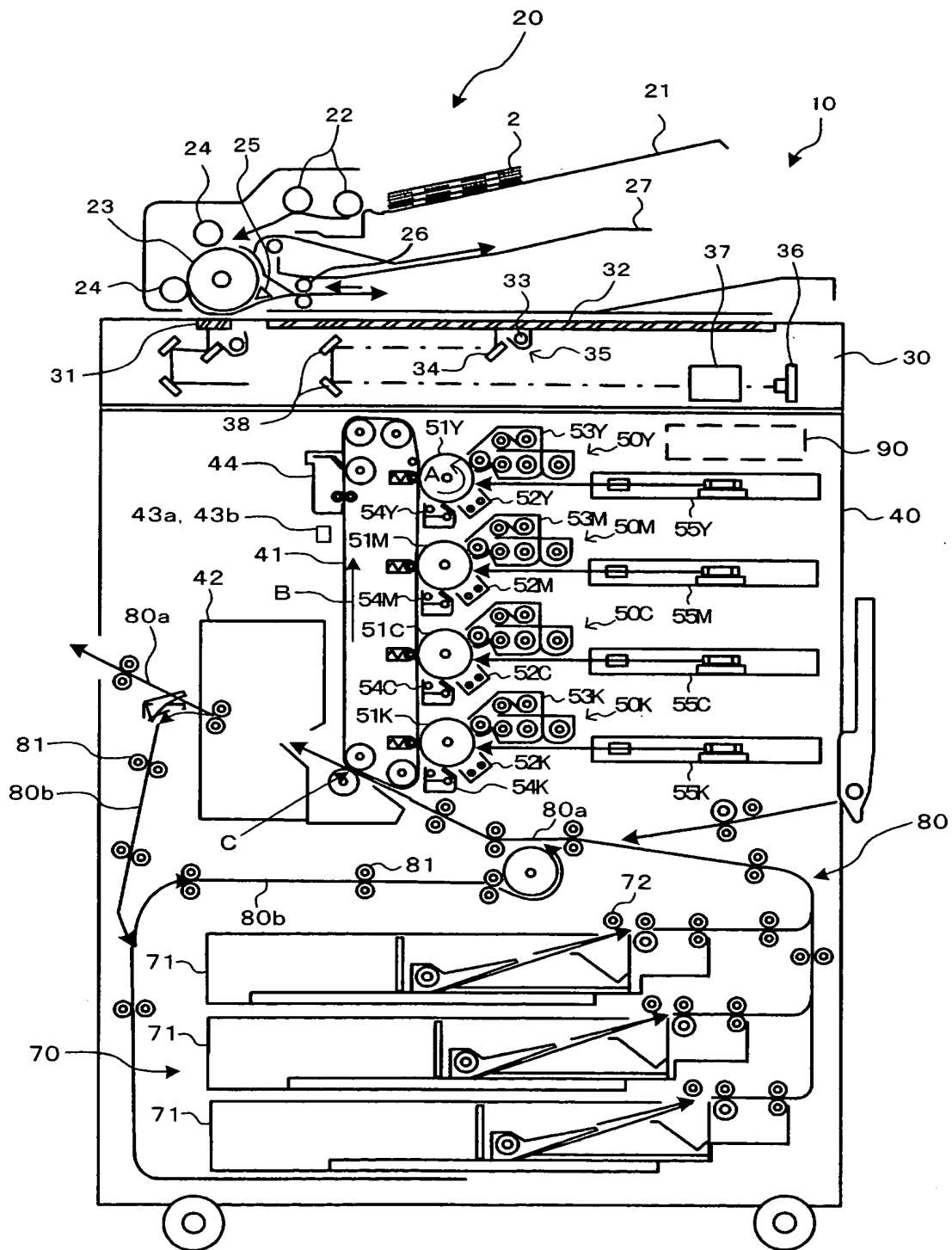


【書類名】 図面

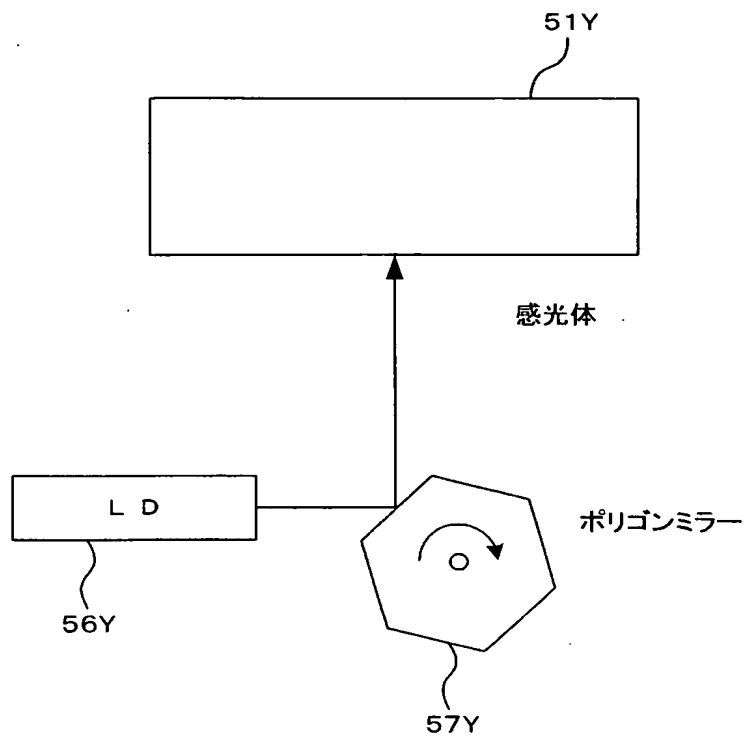
【図 1】



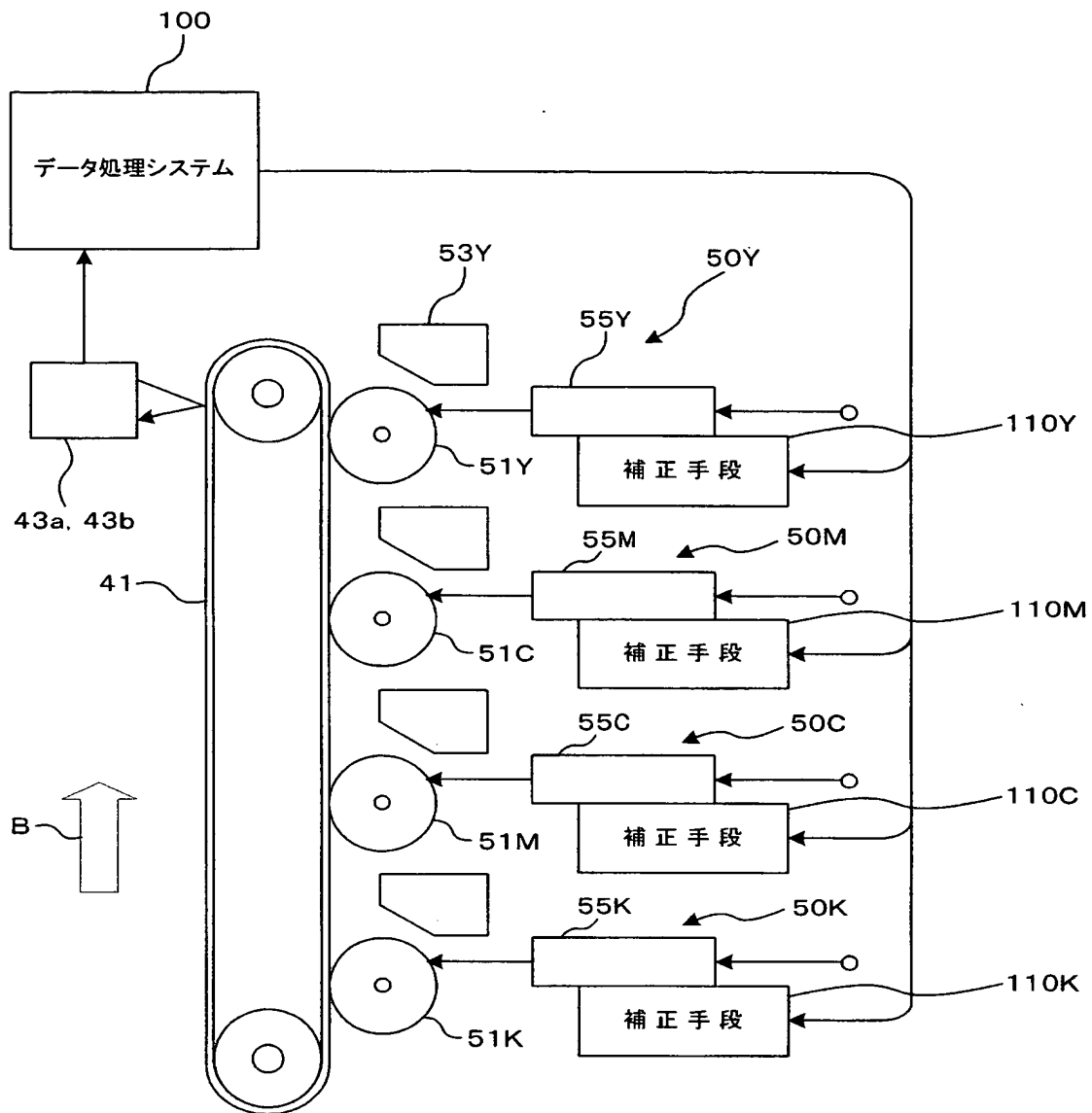
【図 2】



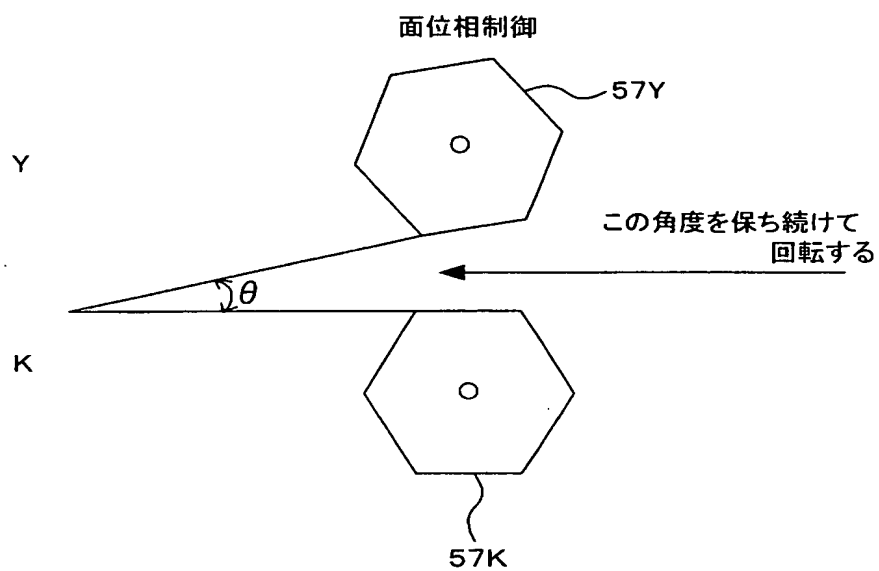
【図 3】



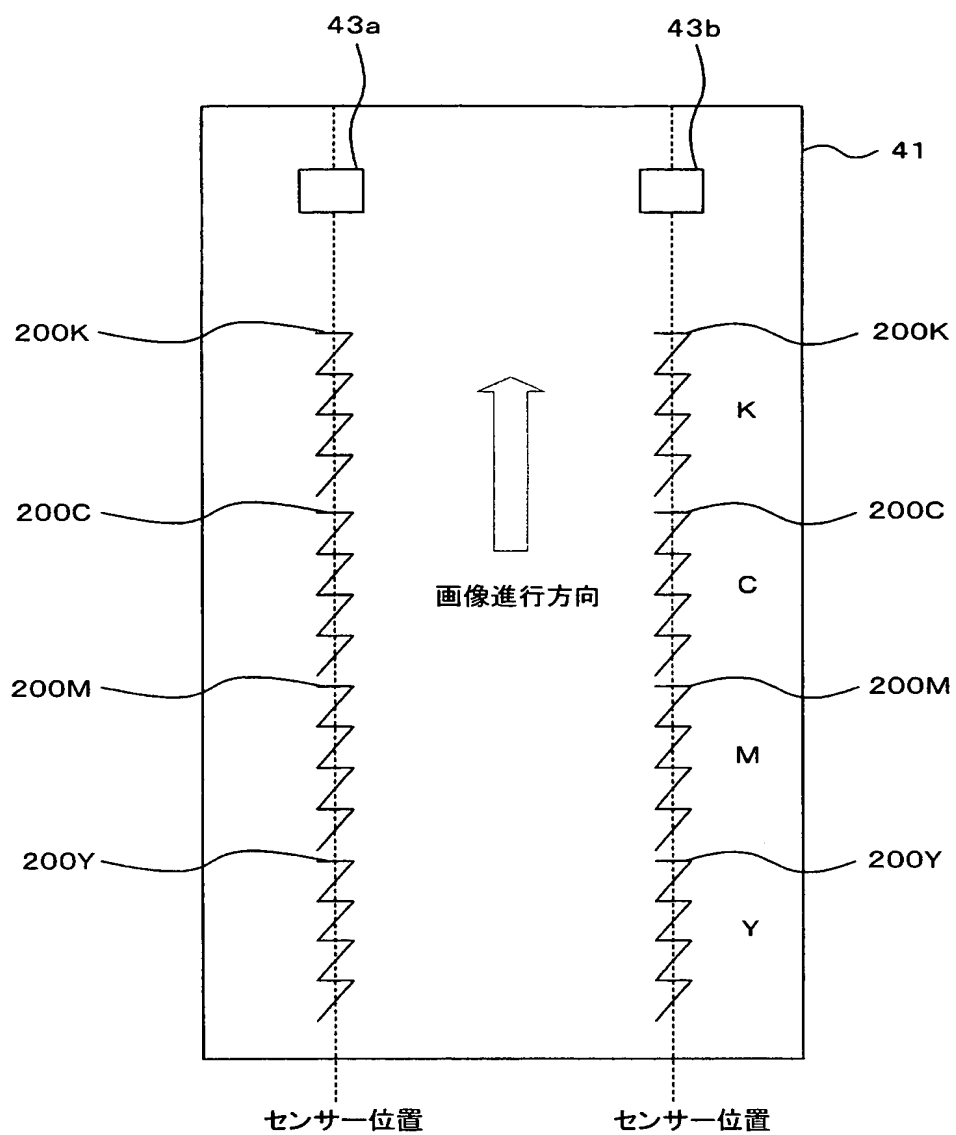
【図 4】



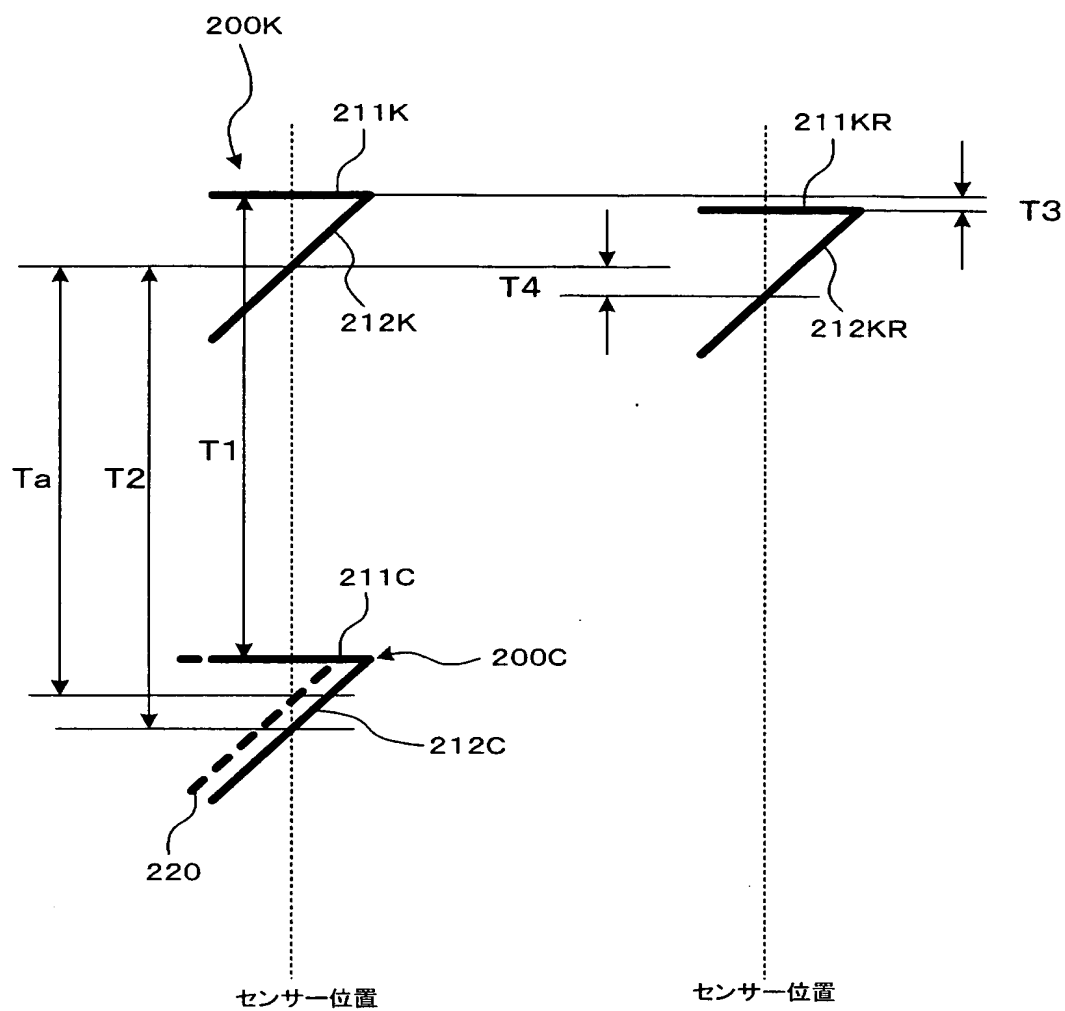
【図 5】



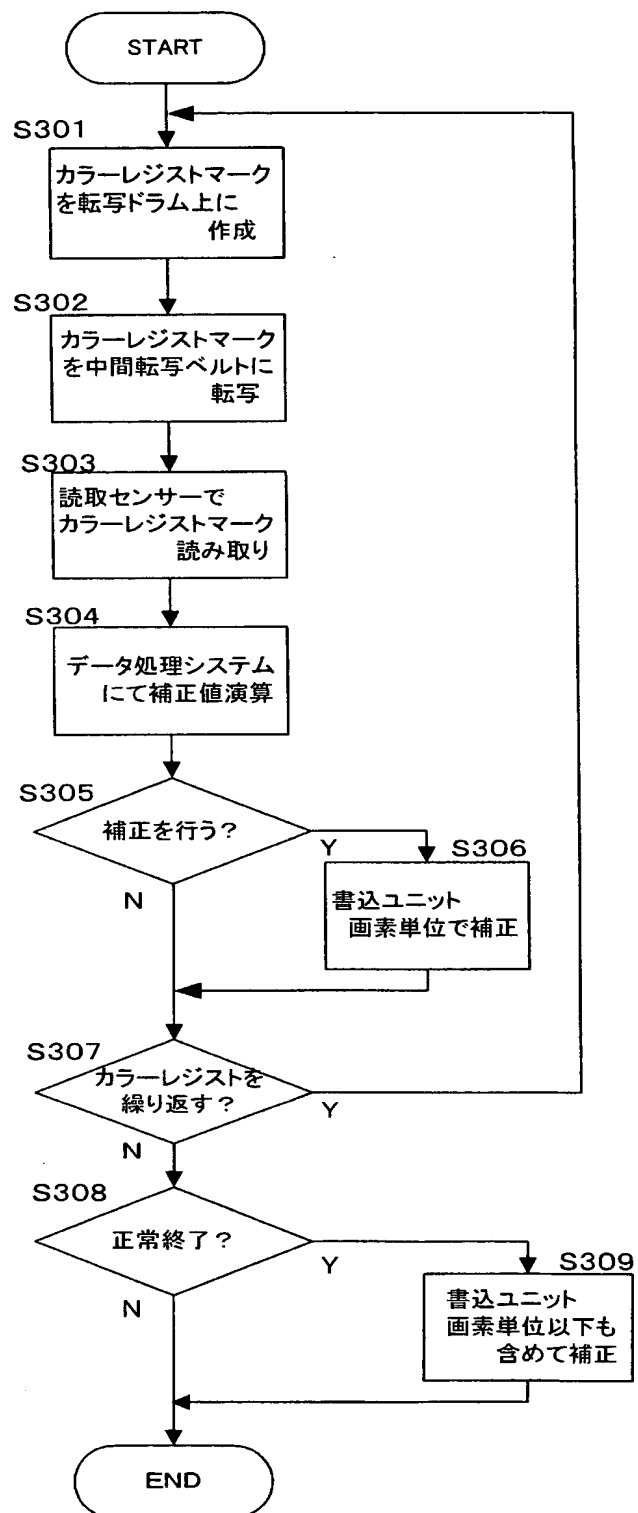
【図 6】



【図 7】



【図 8】





**【書類名】 要約書****【要約】**

**【課題】** 各色の画像を重ね合わせてカラー画像を形成する画像形成装置における色ずれ補正動作の所要時間を短縮する。

**【解決手段】** 制御手段 1 0 1 は、カラーレジストマークを中間転写ベルト上に作成し、レジストセンサ 4 3 によって検出されたレジストマークの位置関係に基づいて各色画像同士の位置ずれ補正量を導出し、この位置ずれ補正量に基づいて各色画像の形成位置を補正することを繰り返し実施する。この際、導出した位置ずれ補正量が目標範囲に入っていない間は画像の形成位置を画素単位に補正し、位置ずれ補正量が目標範囲に入ると画素単位未満の補正量を含めて画像の形成位置を補正して一連の補正動作を終了する。

**【選択図】 図 1**

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 1 5 2 0 0 3
受付番号	5 0 3 0 0 8 9 1 7 6 2
書類名	特許願
担当官	第二担当上席 0 0 9 1
作成日	平成 1 5 年 5 月 3 0 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】	平成15年 5月29日
-------	-------------

次頁無

特願 2 0 0 3 - 1 5 2 0 0 3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 3 0 3 0 0 0 3 7 2 ]

- |          |                          |
|----------|--------------------------|
| 1. 変更年月日 | 2 0 0 2 年 1 2 月 2 0 日    |
| [変更理由]   | 新規登録                     |
| 住 所      | 東京都新宿区西新宿 1 丁目 2 6 番 2 号 |
| 氏 名      | コニカビジネステクノロジーズ株式会社       |
|          |                          |
| 2. 変更年月日 | 2 0 0 3 年 1 0 月   1 日    |
| [変更理由]   | 名称変更                     |
|          | 住所変更                     |
| 住 所      | 東京都千代田区丸の内一丁目 6 番 1 号    |
| 氏 名      | コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社   |